

近代農業の先駆者



す き え ひ で な お
杉江秀直 (1832~1914)

杉江秀直は、170 石の知行を給した
加賀藩士富田方穀の与力でした。秀直は、
明治維新後、國家の興隆には農業の振興
が不可欠と考え、欧米の農業技術を研修
するため、東京学農社に学びました。
1876年(明治9)に帰郷した秀直は、
現在の本町二丁目から住吉町にかけての
地に、農事社を創設し、近郊の農村青年
に、農具の改良や野菜の栽培、畜産など欧米の農業を教えました。

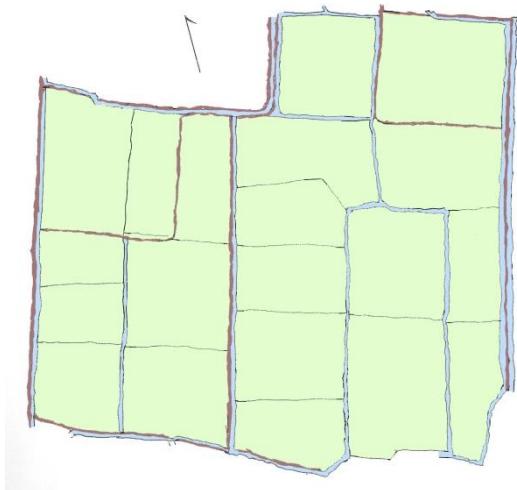
石川郡立模範農場となった農事社の耕地で、1887年(明治20)
に日本で最初の耕地整理である田区改正が実施されました。田区改
正は、小さな田を集約して大きな田にすれば、畔や農道が少なくな
り耕地が増えるということから実践され、はじめは2町5反8畝3
歩 (7,743坪=25,597m²) であった耕地が、実施後は2町7反
8畝6歩 (8,346坪=27,590m²) になり、2反3歩 [603坪=
1,993m²] も増え、この実験は大きな成果をあげました。

農事社で学んでいた石川郡上安原村(金沢市)の高多久兵衛は、
石川式田区改正方式を編み出して、全国に先駆けて村単位での耕地
整理を実施しました。以降、耕地整理は国内各地で行われ、農業生
産は向上していきました。

※尺貫法の土地面積 1町=10反(3,000歩)、1反=10畝(300歩)
1畝=30歩、1歩=1坪(3.3m²)



田区改正 実施前図



田区改正 実施後図

のうじしゃあと
農事社跡（市指定記念物 史跡）



1968年（昭和43）、明治100年の記念と、わが国の耕地整理の先駆的役割を果たした農事社を後世に残すことを目的に、農事社の跡地である住吉町に石碑を建てました。

このように、農事社は、わが国における農業近代化の出発点といえ、杉江秀直の功績は極めて大きいといえるでしょう。